

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570102543
法人名	有限会社 美大
事業所名	グループホーム年輪
所在地	宮崎市大字恒久5983番地 (電話) (0985)54-4841
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21年 6月 26日

【情報提供票より】(21年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 9月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算	7.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木 造 造り		
	2階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1		要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	4 名
要介護5		要支援2	名
年齢 平均	85.2 歳	最低 75 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	南部病院・野崎病院・なかやま歯科医院・巴外科内科・早稲田内科神経科医院・いちばら医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、閑静な住宅地にあり、デイサービスや医療機関などに恵まれている。「尊厳」「接遇と介護技術の向上」「プライバシーの保護」「地域に根ざしたホームづくり」を理念とし、全職員が優しさと声かけでゆとりのある支援に、利用者が安心して生き生きと暮らしている。自治会の一斉清掃に利用者、職員が参加したり、地域の方や保育園児との日常的な交流、中学生の体験学習受け入れなど地域交流も盛んに行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を踏まえ、課題であった避難訓練等について全員で話し合い、改善に向け取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義や目的を管理者が全員に伝え、評価の一連の過程を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、行政担当者、家族の代表、自治会や老人会など地域住民も参加し、3か月に1回開催している。会議では、運営状況の報告や避難訓練等について話し合い、その意見をサービスの向上に活かしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会で家族の意見や不満などを表せる機会を設けている。また、家族の来訪時に職員が必ず声をかけ、意見等が出やすい雰囲気づくりに努めている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保育園児との日常的な交流やボランティア・中学生の体験学習受け入れ、デイサービスセンターとの交流やホームの夏祭りに地域の方が参加し交流を深めている。また、地域一斉清掃に利用者・職員が参加している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊厳」「接遇や介護技術の向上」「プライバシーの保護」そして、「地域に根ざしたホームづくり」を独自の理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は始業時や職員会議の中で理念を読み上げるなど唱和の場を持ち、具体的なケアに活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会の一斉清掃に利用者、職員が参加している。日常的に保育園児、ボランティアとの交流があり、夏祭りの開催など地域の方との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、サービスの質の向上に努めている。評価で見出された課題についてその改善に向け取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3か月ごとに開催し、行政担当者や家族代表、地域住民が参加し、質問や意見・報告など気軽に話し合い、サービスの質の向上に活かされている。		2か月に1回の開催になり、運営推進会議をさらに充実させてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の課題や日常の業務についても気軽に相談できる環境になっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態、金銭管理等についてきめ細かに伝えている。また、ホーム通信や遠方の家族には必要に応じて電子メールで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が管理者や職員に意見などを気軽に言える雰囲気ができている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長は職員の離職等が最小限になるように働きやすい環境づくりに努めている。また、同系列ホームの異動時には2か月間かけて引継ぎを行い利用者にはダメージを与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に会社内外の研修に積極的に参加させている。また、研修結果については、研修報告者が作成され、職員会議で全員に報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの相互訪問や地域のデイサービスの月例行事に招待され、交流・意見交換でサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前にホームに何度か見学に来てもらったり、利用者が職員やサービスの場に徐々になじめるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、昔ながらの慣わし、料理、方言等を教えて貰う場面が多く、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中から、利用者の希望や願望などを「個別日誌」(私の願い)につぶさに記録し利用者の意向を把握し、その支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアのあり方について、職員会議で意見交換を行い検討し、本人や家族の意向を反映した介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の作成は3か月に1回定期的に行い、安定している利用者にも月に1回は本人や家族の意向を確認して介護計画に反映させて見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方の家族が来所の場合、泊れる部屋を準備している。また、近所の高齢者の状況に応じたショートステイの支援にも努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携しており、緊急時・夜間の受診にも対応している。また、月1回内科、歯科の往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について、本人や家族と話し合っている。重度化した場合は主治医、家族と密な連携をとっている。ターミナルの緩和ケアで2人を看取った経験がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人一人の個性、生きてきた背景、性格等に配慮し、人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応がないように細心の注意をしている。また、職員は個人情報保護法の理解に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や体調にあわせ、自由に自分のペースで楽しく暮らせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や後片付けなどを利用者の力を活かしながら職員も一緒に行っている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで同じものを一緒に楽しく食べている。ホームの有機栽培の産物は日々、利用者のメニューを豊かにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を聴いて、人数の多い日は調整し、2日に1回の入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの潜在能力を探りながら、言葉かけや気配りで喪失感を抱かせないケアの取り組みに努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、いつでも出られるように戸外支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵を掛けることは無い。利用者一人ひとりの外出傾向を把握して対応し、外出は自由にできるように取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月避難訓練を実施し、マニュアルも備えている。ベランダや玄関の車椅子用スロープも設置し避難用具も工夫している。スピーカーで地域住民に呼びかけるなど協力を得ながら、さまざまなシチュエーションで訓練している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量は毎日定期的にチェック表で管理しており、栄養士による栄養指導を受け、利用者の嗜好や希望を取り入れたバランスの良い食事内容となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は、明るく程よい広さで、食堂にはホームに咲いた花々や壁には四季に応じた飾り物が飾られ、家庭的で落ち着きのある安心して生活できる場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染の家具や仏壇など慣れ親しんだ物が持ち込まれ、家族の写真や絵を飾り、その人らしい居心地の良い居室づくりを工夫している。		